

十勝岳の火山活動解説資料

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

本日（7月3日）03時07分から03時35分にかけて一時的に、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象を観測しました。この現象は、高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定されます。

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められませんが、火山ガスが風下の登山道まで流れてくることがありますので注意して下さい。

活動概況（図1～2）

本日（7月3日）03時07分頃から03時35分にかけて、噴煙の隙間から一時的に、大正火口付近が夜間に高感度カメラで明るく見える現象を観測しました。この現象は、高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定され、今年6月9日にも観測されています。今回も、6月9日の夜間に明るく見えた範囲と同程度の大きさで、ごく小さく微弱なものでした。この現象の前後で、火山性地震の増加や火山性微動は観測されず、地殻変動及び空振データにも特段の変化はありませんでした。

62-2火口の噴煙の状況には変化はありません。

臨時に発表した最新の火山活動解説資料は(http://www.seisvol.kishou.go.jp/sapporo/v-act/v-act_100.pdf)をご覧ください。

活動評価

十勝岳の地震活動・噴煙活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加などが観測されているほか、山麓の温泉成分にわずかな変化が認められています。今後の火山活動の推移に注意して下さい。



図1 十勝岳 遠望カメラ位置及び撮影方向（赤矢印）



図2 十勝岳 大正火口付近が夜間に高感度カメラで明るく見える現象の状況（北海道カメラ、図1より撮影）

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)で閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用しています(承認番号 平23情使、第467号)。
この資料は気象庁のほか、北海道のデータも利用して作成しています。